

## 編集室



明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願ひいたします。

また、平素より「水産宮崎」をご覧いただき、誠にありがとうございます。

「水産宮崎」の担当となり早5年が経ち、多くの方々の協力を得て今年も新年号にたどり着くことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、昨年の社会情勢を顧みますと、1月1日に発生し、400人超の死者を出した能登半島地震や、翌日には、それに伴う海上保安庁航空機の羽田空港地上衝突事故といった、新年早々不穏なニュースが続いた他、本県でも8月8日にマグニチュード7の地震が観測され、防災への意識を再確認させられる一年となりました。

一方、我々漁業界における漁業経営を取り巻く環境に目を転じますと、国際資源であるクロマグロの漁獲枠においては、念願であった大型魚・小型魚の漁獲枠についてWCPFC年次会合にて今年からの増枠が合意されました。

漁業経営コストにおいては、燃油価格・飼料の原材料費の高騰、高止まりが依然続いており、令和6年度の漁業経営セーフティーネットは、燃油、飼料ともに第1～2四半期発動となるなど、漁家経営を圧迫しております。

このような状況の中、JFグループで働く職員として、漁業を守り、漁業を継承していくという観点から、多くの方々へ魚や漁業について関心を持ってもらえるよう情報を発信し続ける必要性を再認識しております。

漁業を取り巻く環境は、依然として漁業収益の減少や後継者不足等厳しい状況ではありますが、この「水産宮崎」が、漁業者の皆様のご事業、生活の改善に繋がるよう、関係者の皆様が情報共有していただくツールとしてご活用いただけるように、本年も引き続き紙面作りに精進して参ります。

結びになりますが、今年1年が皆様にとって、実り多き年になりますようご祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

